

石狩の神社

石狩の神道の歴史は、元禄7（1694）年の石狩辨天社（弁天社）の創始に始まります。その後、明治期に農業開拓のための入殖に伴って、市内各地に神社が設けられました。創建後、時代の変化などにより移転、廃止されたものや合祀されたものも少なくありません。

（三島照子）

石狩（旧石狩市域）の神社

名称	所在地	創始	備考
石狩辨天社	弁天町北18	元禄7（1694）年	妙亀法鮫大明神を合祀。
石狩八幡神社	弁天町1	安政5（1858）年	茨城の水神、札幌神社分神を合祀。
稲荷神社	八幡2丁目	江戸期	
花畔神社	花畔573	明治5（1872）年	花畔瑞穂神社、相馬妙見太田神社を合祀。
生振神社	生振557	明治6（1873）年	伏籠神社を合祀。
樽川神社	樽川519	明治20（1887）年	昭和47年現在地に移転。
高岡神社	八幡町高岡22	明治22（1889）年	大正14年に現在地に移転。
南線神社	花川3条1丁目24	明治27（1894）年	昭和54年現在地に移転。
生北神社	生振北8線8号	明治34（1901）年	稲荷神社を合祀。
美登位神社	美登位	明治34（1901）年	石狩八幡神社から分社。
五の沢神社	八幡町高岡	明治35（1902）年	石狩八幡神社の末社。

（「石狩町誌／下」から現存するもののみを抜粋）

（1）石狩市（1997）石狩町誌／下、石狩市。